

パネル III：スタートアップ企業と中小企業によるイノベーション促進のための政府プログラム

Panel III: Government Programs to Encourage Innovation by Startups and SMEs

モデレーター：ブラッドレイ・ノックス Bradley Knox, 合衆国下院 小企業委員会

スタートアップ企業と中小企業によるイノベーション促進のための政府プログラム：イノベーション支援の役割

Government Programs to Encourage Innovation by Start-ups & SME's: The Role of Innovation Awards

チャールズ・ウェスナー Charles Wessner, 全米アカデミー 科学技術経済政策委員会

グローバル時代のイノベーションについて、小企業の役割と重要性、政策、課題等について報告した。米国にとって中小企業によるイノベーションは極めて重要であるが、市場でのベンチャー・キャピタルからの技術開発の初期段階への投資は限られており、企業側からのプロポーザルに基づいた、政府の小企業イノベーション研究 (SBIR) プログラムや先進技術プログラム (ATP) を通じた資金援助は大きな役割を担っていると報告した。

日本におけるスタートアップと起業家精神を促進するプログラム：経験と教訓

Programs to Stimulate Startups and Entrepreneurship in Japan: Experiences and Lessons

安田 武彦, 東洋大学経済学部教授

1990 年代に入ってから日本における起業家活動は停滞している状況を踏まえ、その解消のために、有限責任会社に必要な最低資本金の撤廃、起業家精神の教育、担保なしの資金援助などの政策が導入されたが、潜在的起業家の間ではそれほど認知されておらず、情報を広く知らせるためには、過去にスタートアップの経験がある人材を有効に活用する必要があると指摘した。

ディスカッション

飯塚 哲哉, ザインエレクトロニクス株式会社 社長

自らのファブレス半導体企業のスタートアップの経験に基づいた報告を行い、米国と比較して環境が整っていない日本においても有カスタートアップ企業の成長力は大手企業よりも高くなっており、その促進には単なる補助金の供給ではなく、リスクを取った投資が最も効果的であると指摘した。

討論

国民金融公庫の融資制度における貸し倒れ率とそれへの対応に関して、貸し倒れ率のデータを持ってはいないが、貸し倒れ率が高いという議論はこれまで特にないため、ある程度機能していると思われるとの指摘があった。また、保証人がいない場合でも、国民金融公庫から借りて逃げ出すような人はほとんどおらず、引き続きお金を借りるため、モラルハザード的なものは蔓延しているとはいえないとの指摘もあった。

米国におけるリスクの高い最先端の企業への投資に関して、政府による支援プログラムはうまく機能しているのか、また改善余地あるのかという点については、ATP は 3 分の 1 しか成功していないという批判があったが、それでも成功率は十分高いはずなのにあまり評価されていないという現状が挙げられ、成功・機能しているというのをどのように定義するかは難しいが、創業開始時のファイナンスには情報の非対称性の問題があることを考慮すると、SBIR による小規模な支援であってもその緩和につながるため大きな効果があると考えするという指摘があった。